

病棟の子へ 笑顔届ける道は

病院で長期にわたって闘病生活を送る子どもたちを励ますため、プロの音楽家や大道芸人とともに信州大病院（松本市）を含む全国の病院を訪問してきたNPO法人「スマイリングホスピタルジャパン」（東京都杉並区）が、新型コロナウイルスの感染拡大で活動の休止に追い込まれている。子どもたちを何とか支援しようと、代表の松本恵里さん（60）はオンラインによる活動を模索する。現在の状況や今後の活動方針を聞いた。

（城石愛麻）

スマイリングホスピタルジャパンの今後の活動方針を語り、著書を紹介する代表の松本さん



活動のこれまで あす本発売

スマイリングホスピタル・松本さん

松本さんは、スマイリングホスピタルジャパン設立に至る経緯や病院への訪問活動をまとめた「夢中になれる小児病棟」（英治出版）を9日に出版する。全国の書店やオンラインストアで販売する。「入院中の子どもたちを夢中にさせる活動を多くの医療現場に伝えたい」と話す。

松本さんは団体設立前に交通事故に遭い、生死をさまよった。長期にわたる入院とリハビリで回復を果たした後、入院する子どもたちの学習を支援しようと都内の病院に開設された院内学級で英語教師として働き始めた。

著書では、こうした経験を踏まえ、「重い病や障害で長期入院する子どもたちが夢中になれる時間を、プロによる音楽や手品などを通じて届けたい」との思いが芽生えたと紹介した。

院内学級の教師のほか、活動を通して出会った子どもたちが不安と苦しみを抱えながらも、夢中になれる何かを見つけることで前向きに生きられるようになった実例も取り上げた。四六判、200頁。1600円（税別）。

東京のNPO法人 信大病院などで活動休止

「コロナ禍は活動にどのような影響を与えていますか。」

昨年三月以降、一時的に感染状況が落ち着いたら一カ月間を除いて全ての訪問活動ができなくなり、現在も再開できていません。音楽や映画が「不要不急」とされていますが、自分らしく

コロナと闘う

いるためには必要ははず。入院中の子どものとつてもそれは変わりません。今の状況では、子どもの感性が伸びにくくなってしまふと危惧しています。重い心身障害や病気で入院している子どもたちはコロナ禍以前も家族や学校の友達と会える機会が少なかった。現在は感染を予防するため、親と面会しにくくなり、院内の子ども同士も集まりにくい状況になっています。

「現在ほどのような活動をしていきますか。」

「直接訪問しなくても子どもたちが楽しめるよう昨年四月、動くのです。」

「今後オンラインによる「リモート訪問」を展開していきますか。」

オンラインを利用すれば、子どもが参加しやすく、とても生き生きします。ただ、実際の運用は病院側にとってハードルが高いのも事実。病室などに通信環境が整っていないだけでなく、子どもたち一人一人にタブレット端末を見てもうらうには補助要員も必要です。病院への訪問活動が再開できるのは、数年先かもしれませんが、訪問活動やオンラインの利用以外に子どもたちに笑顔届ける方法はあるのではないかと。その思いから、医師や芸人だけでなく、一般の人も参加してアイデアを提案しあえるサイト「SHJ子どもとアート研究会」を立ち上げました。これまで私たちの活動に直接携われなかった人とも交流しながら、今後の活動をどうしていくか考えていきたいと思っています。

芸人らとオンライン訪問模索